

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域に根ざした総合学科高校として、多様な人々がともに生きる社会の形成者を育成する学校

1 総合学科の特性を活かし、多様な生徒の多様な学びと多様な進路実現を保障する。

2 人権教育を軸にして、主体的に社会に参画し、他者と協働できる資質・能力を育む。

3 地域とともに学び、地域の教育力の向上に貢献する。

2 中期的目標

- 1 総合学科の特性を活かし、「確かな学力」を育む
- (1) 総合学科の特色を活かしたカリキュラムマネジメント推進体制の確立
- ア 生徒の学力を把握・分析し、本校の取組みを評価・改善していくシステムを確立する。
- ・生徒の生活実態、学習状況、進路意識等に関する調査を継続的に実施する。
 - ・「観点別学習状況の評価」の定着と「1人1台端末を活用した学習方法」の研究を進めるとともに、授業改善を進める。
- イ 学習意欲を高め、「基礎学力の充実」と「生涯にわたり学び続ける学習力」を育むカリキュラムを構成する。
- ・学習指導要領の趣旨を踏まえ、多様な科目の内容を一層充実させるとともに、科目どうしの系統性を考慮した持続可能なカリキュラムを実施する。
 - ・生徒の学びへの意欲向上と学習習慣の確立をめざし、家庭の理解と協力を求めるとともに、幅広く外部人材の活用を進める。
- (2) 生徒が安心して安定した高校生活を送るための環境整備
- ア 生徒の支援体制、相談体制を整える。
- ・SSWと協働し、生徒を支援する体制を整え、具体事例への対応をすすめる。
 - ・外国にルーツがある生徒を取り巻く状況を理解し、オアシス主担を中心に生徒支援をすすめる。
 - ・教育相談体制を整備し、不登校や退学を防止する。
- ※自己診断（生徒）「担任以外で気軽に相談できる教員がいる」肯定率令和8年度83%（R3：73.5%、R4：73.1%、R5：78.4%）
- イ 生徒の自律・自立に向けた生活指導・キャリア教育を推進し、将来展望を持って積極的に学ぶ意欲を養う。
- ・自他を尊重し、様々な人が共に生きる社会で通用するマナーを指導し規範意識を育む。
- ※自己診断（教職員）「学校生活上のマナーについての指導が十分になされている」肯定率令和8年度65%（R3：50.0%、R4：52.8%、R5：57.1%）
- ・生活背景をふまえた生徒理解をもとに丁寧な生徒指導を行う。
- ウ 校内設備の充実及び校内美化に努め、生徒が学習に集中しやすいように落ち着いた環境を作る。
- ※自己診断（生徒）「清掃に関する項目」肯定率令和8年度70%（R3：62.2%、R4：60.3%、R5：65.2%）
- (3) 教職員が自ら学び、専門性を高め、質の高い教育実践を推進する組織づくり
- ア 教員の授業力向上を不断に進めるためのシステムづくりと条件整備を行う。
- ・校内授業研究を継続的に実施し、教員の授業力を向上させる。
 - ・業務の適正化、効率化、平準化を組織的に進め、教職員が子どもに向き合える時間を確保する。
 - ・計画的な教職員研修の実施、教職員の様々な研修への参加、他校との交流を進める。
- ※自己診断（教職員）「教員の間で、授業方法などについて検討する機会を積極的に持っている」肯定率令和8年度87%（R3：79.6%、R4：75.5%、R5：85.7%）
- ※自己診断（教職員）「学校運営に教職員の意見が反映されている」肯定率令和8年度80%（R3：75.9%、R4：57.4%、R5：75.5%）
- ※時間外在校等時間月80時間以上の職員令和8年度12名以下（R3：18名、R4：15名、R5：15名）
- 2 とともに生きる社会の形成者としての資質、能力を育む
- (1) キャリア教育の充実
- ア これからの社会で必要とされる資質・能力を踏まえ、「社会への扉（産業社会と人間、総合的な探究の時間）」及び「課題研究（総合的な探究の時間）」の充実を図る。
- ・総合学科の学びの柱として、3年間を見通した系統的な学習プランに基づき、全教職員の共通理解のもとに進める。
- ※3年生学校自己診断「進路決定に際し適切な助言を受け、自分の進路を決定できた。」肯定率令和8年度90%以上（R3：85.1%、R4：80.1%、R5：89.4%）
- イ 本校キャリア教育の拠点としての「インフォメーションルーム」を活用し、ガイダンス機能を充実させる。
- ・学習や進路に関する情報を得られる場として、生徒が積極的に活用できる環境づくりを進める。
 - ・生徒からの相談に応じて適切な支援を行えるよう、教職員のスキルを高め、就職率100%を維持し、生徒の希望進路を実現する。
- ※希望進路決定率 令和8年度100%（R3：97.4%、R4：99.1%、R5：98.5%）
- (2) 生徒の自主活動育成
- ア 生徒会・委員会活動をさらに充実させる。
- ・生徒が学校づくりに参画していけるような支援体制を整える。
 - ・地域で活動する様々な団体等と連携し、社会にも働きかける活動を行う。
- ※自己診断（生徒）「生徒会行事に対する参加意識」肯定率令和8年度85%（R3：72.4%、R4：74.7%、R5：80%）
- イ クラブ活動を活性化する。
- ・生徒のクラブ加入率を高めるための条件整備を進める。
 - ・クラブ活動を支える条件整備、クラブ顧問の指導力向上、部活動大阪モデル等外部人材の活用等により、クラブ指導体制の充実を図る。
- ※部活動加入率 令和8年度55%（R3：45.2%、R4：44.2%、R5：46.6%）
- (3) 人権尊重の学校づくり
- ア 人権が尊重される学校文化の確立
- ・生徒が人権の課題を自分の課題としてとらえ、確かな人権感覚を養う系統性のある学習を継続する。
 - ・教職員の人権に関する知識や感性を常にハイレベルで維持し、すべての教育活動を通して人権教育を行う。
- ※自己診断（生徒）「人権の取組みについての意識」肯定率令和8年度90%以上を維持（R3：87.4%、R4：87.3%、R5：95.4%）
- イ 配慮を要する生徒への支援を全ての分掌・教科・学年等の連携により進める。
- ・日本語指導が必要な生徒、障がいのある生徒等に対する支援体制を整える。
 - ・配慮を要する生徒が他の生徒との関わり、ともに成長できる集団づくりを進める。
- ※自己診断（生徒）「外国籍生徒との交流が自然に行われている」肯定率令和8年度85%（R3：71.0%、R4：68.0%、R5：77%）
- 3 地域と連携・協働し、ともに地域の教育力の向上をめざす
- (1) 家庭・中学校・地域との連携強化

ア 保護者の学校教育への理解と参画を促進するとともに、家庭の教育力を高めるための支援を行う。 ・学校教育目標やその実現に向けた取組みについて保護者に丁寧に説明し、協働して子どもを育成できる信頼関係を構築する。 ・保護者対象の講演会等を企画し、保護者が子育てに関する情報を収集し、相談できる機会を作り、家庭の教育力を高めるようにする。 ※自己診断（保護者）「家庭への連絡や意思疎通」肯定率令和８年度 85%（R３：80.6%、R４：79.2%、R５：82.2%） イ 中学校と日常的な情報共有を行い、信頼関係を築き、連携をさらに強化する。 ・中学校に対して本校の取組みを積極的に発信し、生徒の成長を見守り、支援していただける関係づくりを行う。 （２）地域の社会教育資源を活かした教育実践の実施 ア 本校の教育活動を積極的に地域に発信し、地域の次代を担う若者の育成という視点で、理解と共感を得る。 ・本校ホームページでの発信をはじめ、地域の方々に本校をご覧いただく機会を増やし、本校の教育活動への理解を深め、教育のあり方についてともに考えられる関係をつくる。 イ 本校の教育を理解し、参画していただける方を増やす。 ・「社会への扉」や「課題研究」をはじめ、様々な取組みにおいて、生徒が地域に出て学ぶ機会を積極的につくり、地域の方々の理解を得るとともに協力を仰ぐ。 ※自己診断（生徒）「授業や部活動・学校行事等を通じて、保護者や地域の人々と関わる機会が多い」肯定率令和８年度 60%（R３：41.4%、R４：47.1%、R５：53.8%） （３）地域との協働を深め、地域の教育力向上に貢献する。 ア 地元中学校区地域教育協議会への参画を通して、学校の教育資源を地域の教育力向上のために活用する。 ・地域の教育機関との連携を深め、協働して子どもを育む顔の見える関係をつくる。 ・本校の特色のある授業や施設を地域に開き、地域の方々の学びの場、活動の場として提供する。 ※自己診断（生徒）「授業や部活動・学校行事等を通じて、幼稚園・保育所等との交流する機会がある」肯定率令和８年度 60%（R３：39.8%、R４：39.6%、R５：52.1%） イ 生徒の学習活動の中に、生徒が地域課題を理解し、課題解決の方法を考え行動する取組みを行う。 ・「社会への扉」の授業や生徒会活動等において、生徒が社会で活動する方々と協働する機会をつくり、生徒の社会参画への意識を育てるとともに、地域の課題解決に寄与する。 ※自己診断（１年生徒）「社会への扉」肯定率令和８年度 90%以上を維持（R３：80.1%、R４：79.1%、R５：91.2%）	
--	--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 6 年 12 月実施〕	学校運営協議会からの意見
【生徒全体】 昨年度と比較すると、20 項目中 16 項目において、肯定的評価の割合が５％以内の変動に収まっており、全体として学校生活の満足度は概ね維持していると言える。特に「学校は、進路についての情報をよく知らせてくれる。」「ホームルームや授業などで将来の進路や生き方について考える機会がある。」では、肯定的評価の割合が９割を超えており、学校での進路指導には満足していると判断できる。また、「学校は生徒１人１台端末(Chrome book)を 効果的に活用している。」については、昨年度より肯定的評価の割合が 6.6%上昇し、９割を超えた。これは、授業者の工夫により、１人１台端末を活用した授業が浸透してきた結果であるといえる。一方、「この学校では、図書館が生徒に活用されている。」では、肯定的評価の割合が 7.6%減少し、全項目の中でも２番目に低かった。今後、放課後や休み時間の活用だけでなく、図書館を活用した授業を行うなど、生徒が書籍に親しむ取組みを充実させていく必要がある。 【１年生】 １年生は、多くの項目において、昨年から肯定的評価の割合に大きな変化はなかったが、「他の先生が授業を見学に来ることがある。」については前年から 14%減少している。教員の自己診断での、「学校内で他の教員の授業を見学する機会がよくある。」における肯定的評価の割合は 97.7%であるが、教員が見学する授業に偏りがあった可能性がある。教員に対して、教科や科目にとらわれず、幅広く授業を見学するように促したい。 【２年生】 ２年生は、他学年に比べて、全体的に肯定的評価の割合が高く、14 項目において前年の割合を上回っている。「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」や、「外国籍生徒との交流が自然に行われている。」についても昨年度より高く、多様な生徒が安心して学べる環境であると言える。この動きを学校全体に広げていく必要がある。 【３年生】 ３年生は、「授業や部活動、学校行事を通じて、他の学校や幼稚園・保育園等との交流の機会が多い。」の項目における肯定的評価の割合が、この３年間で最も高くなっている。今年度、地域の施設を訪問する授業や、部活動において近隣の中学校や大学と合同練習をする機会が増加したことが反映されている。一方、「学校では生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。」については、肯定的評価の割合が３年間で最も低かった。生活規律や学習規律の確立にむけ、粘り強い取組みが一層必要である。 【保護者】 保護者は、「子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている。」については３年連続で、「学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」については４年連続で肯定的な評価の割合が上昇している。授業改善推進委員会の継続した取組みや、教育相談委員会の整備などが、安心して学べる環境づくりにつながってきている。一方で、「学校は、教育情報について、家庭への提供の努力をしている。」「学校は、ホームページに必要な情報を載せている。」の項目についてはいずれも前年を下回った。Web ページの更新や公式 SNS の開設、学習支援連絡網の活用など、積極的な情報提供や情報共有を図っているが、学校に対してさらなるサービスのオンライン化が求められているものと考えられる。授業だけでなく、学校全体の DX 化を進める必要がある。 【教職員】 教職員は、「指導内容について、他の教科と話し合う機会がよくある。」「教員の間で、授業方法などについて検討する機会を積極的に持っている。」等、授業改善に関する多くの項目において、肯定的評価の割合が昨年度より増加しており、授業改善推進委員会の取組みが一定の成果をあげている。さらに、「生徒の問題行動が発生した場合、組織的に対応できる体制が整っている。」についても、肯定的評価の割合が昨年度より増加しており、教員が協力して事象に対応する体制も強化されている。一方で、「本校の職場においては、教職員の服務規律への自覚が高い。」については前年度を大きく下回っている。今年度、問題となる事象は起こっていないものの、教職員に対し、服務規律についての説明を丁寧に行っていく必要がある。	【第１回 6 月 26 日】 [令和 6 年度 学校経営計画について] ・各委員に報告。 [令和 6 年度 学校の状況について] ・私学高校の授業料無償化や少子化等の影響を受け、志願者数が定員に満たなかった。 ・学校広報について、現在の取組みに追加し SNS の積極的活用を検討している。 ・教職員の働き方改革について、今年度は登校時間と下校時間の見直しも行っていく。 (協議委員からのご意見・ご質問) ・介護は人手不足。高校生から介護をめざす子たちがもっと増えればと思っている。 ・国際関係の進路指導に関して何か特別なことをしているか。 →オアシス生徒が身近にすることで、外国語や文化の違いを感じる環境があることが、強みになっている。 ・進路未決定の生徒はいるのか。 →自分のやりたいことが学校幹旋就職内にないため、フリーターをしている準備をしている。 【第２回 11 月 13 日】 [授業見学] ・第 1 学年 数学 A、英語 R（オアシス） ・第 2 学年 数Ⅱ演習 ・第 3 学年 造形専門、脳トレ入門 [協議] (１) 令和 7 年度教科書選定について ・原案通り承認。 (２) 授業見学のご意見・ご感想 ・プロジェクターでスクリーンを貼らずにあれだけきれいに見えているのがすごい。 ・総合学科の少人数授業は魅力的。 ・脳トレと造形は選択科目ということもあり、生徒も楽しそうに授業を受けている。 【第３回 1 月 29 日】 [令和 6 年度報告] (１) 学校教育自己診断結果報告 ・清掃関連の数字が上がっているのはなぜか。(質問) →主体の存在を明確にするために質問の仕方を変えたことが要因の１つであると思われる。 ・「学校へ行くのが楽しい」の肯定率は高いが、「まったくあてはまらない」と回答した生徒がいることへの対応も必要。(意見) →SC の活用も含め、対策を考えていきたい。 ・人権教育の項目と外国籍生徒との交流の数値が高いのは良いこと。出前授業やオアシス生徒との交流が非常に良かった。交流を増やしてほしい。(意見) (２) 重点目標達成状況報告 ・SC、SSW の相談件数や相談内容は。(質問) →SC 重点配置校に認定されている。相談は 1 日最大 6 件で、0 件のときはない。相談内容は友人関係が圧倒的に多い。不登校生徒に関してのアプローチとしても有効である。 [協議] (１) 令和 6 年度学校経営計画達成状況 ・次年度に向け、改善部分も含め評価内容を報告。 ※各委員から質問や意見は特になく、原案は承認された。 (２) 令和 7 年度学校経営計画策定に向けて ・生徒の安全意識を高めるため、安全教育を充実させる。 ・公式 SNS 等を活用し、情報発信を充実させる。 ・日本語指導が必要な生徒選抜で入学していないが、日本語指導が必要な生徒の増加と対応についてどのようにしていくのか。(質問) →新たな委員会を立ち上げ、学校全体で支援していく仕組みを充実させていく。 ・小中連携・高大連携をこれからもぜひ進めてほしい。(意見) ・八尾北の昔からの良さが残っている部分と、時代に合わせ変わっている部分とがある。(意見) ※各委員から異論はなく、原案は承認された。

府立八尾北高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 総合学科の特性を生かし、「確かな学力」を育む	(1) 総合学科の特色を生かしたカリキュラムマネジメント推進体制の確立	ア. 授業改善チームとオンライン授業推進委員会が連携し、1人1台端末、ICT機器を利用した授業研究を行う。 イ. ガイダンス部は、教育産業を活用し学力生活実態調査の実施・分析を行い、生徒の学力向上のための課題を整理する。整理された課題をカリキュラム・マネジメントコア委員会と連携し、各教科に報告し指導方針の改善につなげる。 ウ. 学習指導部と各教科が連携し、総合学科の特色を活かした教科・科目の内容を発展させ持続可能な形を模索し続ける。	ア. 自己診断（生徒）「ICT機器を使用して発表する機会が多い」肯定率90%以上維持[92.5%] 自己診断（生徒）「生徒1人1台端末を効果的に活用している」肯定率86%[84.5%] イ. 学力生活実態調査の分析結果報告書を作成（年2回）。それぞれの分析結果に基づき、各教科が効果検証を行い、指導方針を見直す。[年2回] 自己診断（教職員）「教員の間で、授業方法などについて検討する機会を積極的に持っている」肯定率87%[85.7%] ウ. 自己診断（教職員）「各年度の教育計画の作成に当たって、教職員でよく話し合っている」肯定率77%[75.5%]	ア. 自己診断（生徒）「ICT機器を使用して発表する機会が多い」肯定率91.5%（○） 自己診断（生徒）「1人1台端末を効果的に活用」肯定率91.1%（◎） イ. 学力生活実態調査を年2回行い分析結果の共有を行った。効果検証を行い、指導方針の見直しは、教科によってばらつきがあるため工夫が必要。（○） 自己診断（教職員）「教員の間で授業法などについて検討」肯定率88.7%（○） ウ. 自己診断（教職員）「各年度の教育計画の作成に当たって、教職員でよく話し合っている」肯定率79.1%（○）
	(2) 生徒が安心して安定した高校生活を送るための環境整備	ア. 保健指導部は担当窓口を設置し、スクールカウンセラーが個別に生徒を支援できる体制をつくる。 オアシス主担が中心となって外国にルーツがある生徒支援体制をつくる。 イ. 生活指導部生徒指導担当を中心に、全教職員の意思統一を図りながら、生徒の生活背景をふまえた生徒理解のもと、ポジティブな行動支援を行い、生徒の自律を促す生徒指導を行う。 昨年度から全学年において実施している朝のSHRで、担任とのコミュニケーションをはかり、生徒状況の把握に努める。遅刻回数の多い生徒に対しては、保護者と連携して状況把握や指導を行うなど、個別に支援する。 ウ. 日常の清掃指導を丁寧に行うと共に、保健委員会活動を活性化し生徒の校内美化の意識を高める。	ア. 教育相談委員会を月1回程度開催し、情報共有を行う。 オアシス主担が中心となって、連絡会等を企画・実施する。 自己診断（生徒）「担任以外で気軽に相談できる教員がいる」肯定率75%[73.1%] イ. 自己診断（生徒）「生徒指導における教員同士の協力」肯定率90%以上維持[93.8%] 自己診断（教職員）「学校生活上のマナー指導」肯定率59%[57.1%] 年間遅刻件数4000件以下[4619件] ウ. 自己診断（生徒）「学校美化に関する項目」肯定率66%[65.2%]	ア. 教育相談委員会を月2回実施し、情報共有を行った。（◎） オアシス主担が連絡調整を行っているが、連絡会を実施することはできていない。（△） 自己診断（生徒）「担任以外で気軽に相談」肯定率71.3%（△） イ. 自己診断（生徒）「生徒指導における教員同士の協力」肯定率91.7%（○） 自己診断（教職員）「学校生活上のマナー指導」肯定率65.1%（◎） 年間遅刻件数4216件（△） ウ. 自己診断（生徒）「教室やトイレが清潔に保たれるよう清掃を行っている」肯定率72.8%（◎）
	(3) 教職員が自ら学び、専門性を高め、質の高い教育実践を推進する組織づくり	ア. 学習指導部は、授業改善チームと連携し教員の授業力向上のため、教員同士の授業見学、授業研究等の具体的取組みを計画・実施する。 イ. 校務改善のための委員会等を組織し、分掌長等と連携して業務の整理・平準化を進める。 ウ. ICTの活用や部活動の適切な休業日設定等、働き方改革による時間外勤務削減を図ることにより、教職員の健康とワークライフバランスを守り、教材研究や生徒と向き合う時間の確保に努める。	ア. 授業力向上のための授業見学会・研修会を授業公開週間（年間2回）に併せて実施。 自己診断（教職員）「学校内で他の教員の授業を見学する機会がよくある。」肯定率81%[79.6%] イ. 自己診断（教職員）「学校運営に教職員の意見が反映されている」肯定率77%[75.5%] ウ. 時間外在校等時間月80時間以上の職員14名[15名]	ア. 授業公開週間を年2回設定し、積極的に見学・研修会を行った。（◎） 自己診断（教職員）「他の教員の授業を見学する機会がよくある。」肯定率97.7%（◎） イ. 八尾北向上委員会を立上げ、校務改善の取組みを進めている。 自己診断（教職員）「学校運営に教職員の意見が反映されている」肯定率69.8%（△） ウ. 時間外在校等時間月80時間以上の職員9名（◎）

府立八尾北高等学校

2 ともに生きる社会の形成者としての資質、能力を育む	(1) キャリア教育の充実	ア. ガイダンス部の「社会への扉」担当は、探究科目として構成した学習プランの精選を行うことにより、生徒の実情に即した内容にするとともに引き続き全担任・副担任が担当する科目として、担当者間の共通理解を深めながら、総合学科の学びの柱としての充実を図る。 イ. ガイダンス部進路支援担当は、生徒がより利用しやすくなるためにインフォメーションルームの環境整備を行う。あわせて、中学生への広報活動に役立てる。 ウ. ガイダンス部進学指導担当は、進学の目的・卒業後の進路・学費等を含めた進路指導を行い、充実を図る。	ア. 「社会への扉」冊子をもとに年間学習プランを年度当初に作成し、学年ごとに全担当者による教科会議を定期的に開催。 「社会への扉」「課題研究」等の授業で図書館を積極的に利用し、自主的で深い学びを行う。 自己診断（１年生）「社会への扉」肯定率 90%以上維持[91. 2%] 自己診断（生徒）「図書館の活用」肯定率 68%[66. 4%] イ. 自己診断（生徒）「進路についての情報」肯定率 91%[89. 3%] ウ. 自己診断（３年生）「進路決定への助言」肯定率 91%[89. 4%] 希望進路決定率 100%[98. 5%]	ア. 担任会や学年会に続けて、年 20 回程度教科会議を定期的に行うことができた。（○） 社会への扉の目標数値は下回ったが、肯定率は高い数値を維持しており、内容の定着に向かってしていると判断できる。 自己診断（１年生）「社会への扉」肯定率 89. 7%（○） 自己診断（生徒）「図書館の活用」肯定率 58. 8%（△） イ. 自己診断（生徒）「進路についての情報」肯定率 90. 9%（○） ウ. 自己診断（３年生）「進路決定への助言」肯定率 84. 6%（△） 希望進路決定率 98%（△）
	(2) 生徒の自主活動育成	ア. 生活指導部生徒会担当は、体育祭・文化祭の取組みへの参加意識を高め、社会とつながる力・他者と協働する力を育成できるよう、計画的・段階的に取り組む。 イ. 生徒の部活動や委員会活動への参加率を高める取組みを進めるとともに、部活動大阪モデル等外部指導員の活用等を促進できるよう、地域にも働きかける。	ア. 自己診断（生徒）生徒会行事に対する参加意識肯定率 81%[80. 0%] イ. 部活動加入率 48%[46. 6%]	ア. 自己診断（生徒）生徒会行事に対する参加意識肯定率 79. 8%（△） イ. 学校ホームページや SNS を活用し、部活動の取組みを発信しているが、加入率の向上にはならなかった。 部活動加入率 42. 2%（△）
	(3) 人権尊重の学校づくり	ア. 人権教育担当は、人権の今日的な課題を見据え、３年間の人権学習プランを時代に即した内容へ改善し教職員と共有・実践する。校内ミニ人権研修等を企画し、教職員が人権教育について改めて考える時間を増やす。 イ. 本校のすべての教育活動が、人権教育の視点に立って行われるよう、特に全教職員が配慮を必要とする生徒についての理解を深め、全ての生徒がともに学び・育つ学校づくりをすすめる。 ウ. 多文化共生部オアシスは、文化祭での舞台発表、地域行事等に参加し、多文化理解をさらに進める。	ア. 自己診断（生徒）「人権の取組みについての意識」肯定率 90%以上維持。 [95. 4%] 自己診断（教職員）「人権尊重に関する十分な話し合い」肯定率 65 % [61. 2%] 自己診断（保護者）「人権尊重意識を育てている」肯定率 85%以上維持 [90. 9%] イ. 配慮を要する生徒が安心して学校生活を送れるための環境の充実。 支援委員会を長期休業期間明けに（年 3 回）実施。 自己診断（保護者）「生徒の人権を尊重する」肯定率 87%[86. 4%] ウ. 自己診断（生徒）「外国籍生徒との交流が自然に行われている」肯定率 79%[77%]	ア. 自己診断（生徒）「人権の取組みについての意識」肯定率 92. 4%（○） 自己診断（教職員）「人権尊重に関する十分な話し合い」肯定率 67. 4%（○） 自己診断（保護者）「人権尊重意識を育てている」肯定率 90. 6%（○） イ. 支援委員会を長期休業明けに 3 回開催し、情報共有することができた。（○） 自己診断（保護者）「生徒の人権を尊重する」肯定率 87. 6%（○） ウ. 自己診断（生徒）「外国籍生徒との交流が自然に行われている」肯定率 76%（△）

府立八尾北高等学校

3 地域と連携・協働し、ともに地域の教育力の向上をめざす	(1) 家庭・中学校・地域との連携強化 (2) 地域の社会教育資源を活かした教育実践の実施 (3) 地域との協働を深め、地域の教育力向上に貢献する。	ア. 各学年、各分掌は、保護者への積極的な情報提供をホームページ、教育産業のシステムを活用した「校内グループ」等を通して行い、保護者の本校教育活動への理解を深める。 イ. 生徒の出身中学校と日常的な情報交換を行い、信頼関係を築き、連携して生徒を支援する。また学校見学会、出前授業等を充実させ、中学生の進路選択に貢献するとともに、展望を持って本校を志望する生徒を増やす。 ア. 総務部は、本校ホームページを充実させ、様々なツールや機会を利用しながら、保護者や地域の方々の学校理解を深め、本校への協力を得られるようにする。 イ. 「社会への扉」「課題研究」や、多くの選択科目等において、積極的に地域の教育資源を活用し、地域の方々の意見も伺いながら、社会に開かれたカリキュラムの実現をめざす。 ア. 引き続き人権教育担当を中心に、地域教育協議会に積極的に参画するとともに、保・幼・小・中・高の連携を継続できるよう、顔の見える関係づくりを進める。 イ. 地域の団体等が本校の教育資源や施設を活用することにより、地域づくりや地域の教育力向上に貢献できる取組みについて、地域と協議する。	ア. 保護者対象講演会等の企画を PTA の協力を得て 3 回実施。 自己診断（保護者）「学校の教育方針の理解」肯定率 78%[74.3%] イ. 生徒の入学目的や生活背景の把握と中高の日常の連携関係を維持のため、全教職員による中学校訪問（年 1 回）を年度の前半に実施。 中学校等への出前授業等 5 回以上 [5 回] 中学校等への学校説明会 15 回 [14 回] ア. 学校行事への保護者・地域の方々の来校機会と来校者数を増加させる。 自己診断（保護者）「家庭への連絡や意思疎通」肯定率 84%[82.2%] 自己診断（保護者）「学校のホームページに必要な情報を載せている」肯定率 85%以上維持[90.3%] ホームページ更新 100 回以上維持。 [183 回] イ. 地域の教育資源を活用した取組みを各学年で年間複数回実施。選択科目の取組みとしても複数の科目で実施。 自己診断（生徒）「授業や部活動を通じての保護者・地域の人々との関わり」肯定率 55%[53.8%] 自己診断（生徒）「授業や部活動を通じての他校・幼稚園・保育園等との関わり」肯定率 55%[52.1%] ア. 地域教育協議会等への全回出席。地域のイベント等への参加 3 回。 [3 回] イ. 本校ビオトープの一部を、福祉施設へ 1 年間提供する。 特色ある授業において、地域の施設訪問 5 回 [5 回]	ア. 保護者対象の研修会等を PTA と協力して企画し、3 回実施した。(○) 自己診断（保護者）「学校の教育方針の理解」肯定率 78.2%(○) イ. 5 月末から 6 月前半にかけて、全教職員が中学校訪問を行い、情報共有等を行った。(○) 中学校等への出前授業等 7 回 (○) 中学校等への学校説明会 17 回 (○) ア. 自己診断（保護者）「家庭への連絡や意思疎通」肯定率 78.7% (△) 自己診断（保護者）「学校のホームページに必要な情報を載せている」肯定率 88.8% (○) ホームページ更新 190 回 (◎) イ. 自己診断（生徒）「授業や部活動を通じての保護者・地域の人々との関わり」肯定率 51.0%(△) 自己診断（生徒）「授業や部活動を通じての他校・幼稚園・保育園等との関わり」肯定率 52.4% (△) ア. 地域教育協議会等へ全回出席した。(○) 地域のイベント等への参加 3 回。(○) イ. 本校ビオトープの一部を、福祉施設へ 1 年間提供した。(○) 特色ある授業において、地域の施設訪問 11 回 (◎)
---------------------------------	---	---	---	---